

第2部

普天間飛行場移設問題に関するQ&A



移設地として挙げられる
辺野古・大浦湾(名護市)

嘉手納飛行場(嘉手納町)

普天間飛行場(宜野湾市)

辺野古・大浦湾
(名護市)

凡 例
米軍基地

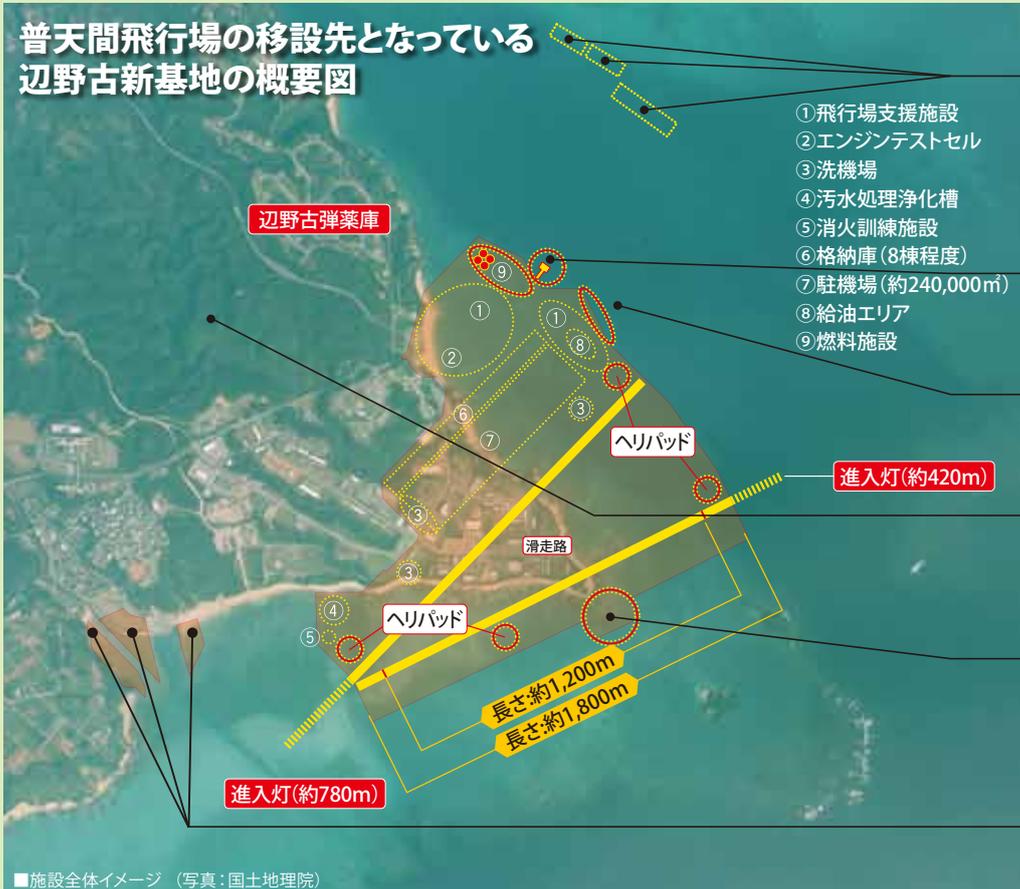
嘉手納飛行場(嘉手納町)

普天間飛行場(宜野湾市)

琉球新報提供

市街地の真ん中で航空機の離発着が行われる普天間飛行場。(写真上)
日米両政府は約25マイルしか離れていない辺野古沿岸への移設が同飛行場問題の「唯一の解決策」としている。
しかし、合理的な理由は説明されておらず、多くの沖縄県民は、県外移設を求めている。

普天間飛行場の移設先となっている 辺野古新基地の概要図



- ① 飛行場支援施設
- ② エンジンテストセル
- ③ 洗機場
- ④ 汚水処理浄化槽
- ⑤ 消火訓練施設
- ⑥ 格納庫(8棟程度)
- ⑦ 駐機場(約240,000㎡)
- ⑧ 給油エリア
- ⑨ 燃料施設

辺野古弾薬庫

ヘリパッド

進入灯(約420m)

滑走路

ヘリパッド

長さ約1,200m

長さ約1,800m

進入灯(約780m)

■施設全体イメージ (写真: 国土地理院)

※上の空中写真(施設全体イメージの写真)は、国土地理院長の承諾を得て、国土地理院撮影の空中写真を複製したものである。(承認番号 平28情復、第1360号)
※承認を得て作成した複製品を第三者がさらに複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。

海上ヤード(ケーソン置き場)

製作済のケーソン(防波堤や岸壁に使用する鉄筋コンクリートの箱)を置く目的で設置されます。面積は約3ヘクタール。埋立工事竣工後に撤去する事になっていますが、土台については生態系への影響を考慮し撤去するかの判断をする事になっています。

燃料棧橋 ※普天間飛行場にはない機能です。

航空機用の燃料を運搬するタンカー(109m)が接岸できます。

護岸(係船機能付) ※普天間飛行場にはない機能です。

全長約272mの護岸で、183.5mの船舶の利用が予定されています。

埋立土砂の採取区域

200万立方メートルの土砂を採取。ここには美謝川集落関連遺跡群があり、琉球王朝時代の街道(宿道)などが確認されています。

弾薬搭載エリア(約16,000㎡) ※普天間飛行場にはない機能です。

航空機に弾薬を搭載したり降ろしたりする場所です。代替施設には辺野古弾薬庫が隣接しており、キャンプ・シュワブ訓練場には廃弾処理施設があります。

作業ヤード

この作業ヤードは、ブロックの製作及び仮置きをする目的で計画されています。その面積は7ヘクタール(そのうち埋め立てるのが5ヘクタール)となり、松田の浜、前の浜、ハーリー会場は工事により消滅することになります。